

## 2018 年度秋学期「教員アンケート」結果について

流通経済大学 FD 委員会

### 1、回答提出状況

全 115 名（専任：77、非常勤：38）

学部別内訳（経済：28、社会：31、流通情報：19、法：10、スポ健：25、不明：2）

専任教員学部別内訳（経済：17、社会：17、流通情報：12、法：8、スポ健：22、不明：1）

科目別内訳（専門科目：67、教養科目：48）

着任年数別内訳（1 年未満：12、3 年未満：21、3 年以上：82）

※2018 年度春学期は全 130 名（専任：74、非常勤：55、不明：1）

学部別内訳（経済：38、社会：30、流通情報：27、法：11、スポ健：22、不明：2）

専任教員学部別内訳（経済：20、社会：13、流通情報：15、法：7、スポ健：19）

### 2、授業における取組みとその成果

#### （1）講義科目

取組みの内容	取組みの成果
双方向型授業 （学生への質問）	授業に積極的に参加する学生が増える場合もあるが、学生からの応答が少ない場合や特定の学生しか回答をしないという状況も生じている。なお、授業中の私語などが減少し受講環境が改善されるとい効果も見られる。
アクティビティ （ペア・グループワークなど）	アイスブレイクやグループワークを実施することで学生が授業に参加しやすくなり、満足度が向上するようであるが、教員がクイズを出すような形の場合は、その時間だけは集中力が高まっても、それ以上の効果はあまり見られないようである。
レポート課題	主体的に授業に取り組む学生を中心に概ね効果がみられるが、授業内容に関心を持たない学生にはあまり効果がみられないとの指摘もある。また、成績評価の際に活用できたとの意見も見られた。
画像・映像の利用	授業中の学生の集中力の維持という観点からは概ね効果が高いものといえるが、これによって学生の授業理解がどの程度深まっているかを定量的に判断することが難しいとの意見も見られた。
授業進行に関する工夫	授業の冒頭で前回の復習を行ったり、授業中に休憩時間を設けたり、授業時間の前半と後半を講義と演習に振り分けることで、学生の理解度や集中力の向上がみられるケースがある。
身近な具体例を挙げる	学生が話に興味を持つ場合には集中力や学習意欲の向上がみられるようであり、そのことが授業アンケートの結果にも表れている場合がある。

## (2) 演習科目

取組みの内容	取組みの成果
レポート課題	演習（ゼミ）の課題としてレポートを作成させる場合には、レポートの提出率が高く、学生の積極的な学習につながっているようである。
フィールドワーク	学外でのフィールドワークを行う場合にも、学生は積極的に授業に参加しているようである。

## (3) 語学科目

取組みの内容	取組みの成果
グループワーク	積極的な学生や、協力し合うことのできるグループでは効果が高いものの、学生の基礎学力や積極性が十分でない場合には、想定している効果が得られないこともあるようである。
外国文化の紹介	学生の興味関心が高まり、積極的に授業に取り組むようになる効果がみられる。また、学生の中には、海外留学に興味を持つものもあらわれたという記述も見られた。

## (4) 実習科目

取組みの内容	取組みの成果
対話型授業	学生の集中や理解を促すことにつながっているものの、対話の質をどのように高めるかに課題があるとの意見もみられた。

## 3、授業改善のための課題

大学全体での課題	履修者数の上限を 100 名程度にしてほしい。 履修者数の多い授業には TA を配置できるようにしてほしい。 学生が科目をよく理解して履修選択を行うよう指導してほしい。 教員間の連携を図るようにしていきたい。
アクティブラーニング	講義科目の中にもグループ/ペアワークを導入したい。 双方向的な授業を実現していきたい。 ディスカッションやアクティビティを導入したい。
授業の質の向上	学生の興味関心を喚起できるような話題を提供したい。 学生の理解度に応じたわかりやすい説明を心掛けたい。 レポートの評価などを学生にフィードバックする機会を作りたい。 画像/映像を積極的に活用していきたい。
授業外学修時間の確保	事前課題や manaba の利用によって授業外学修時間を増やしていきたい。

#### 4、授業アンケートに対する評価・意見

##### (1) アンケートに対する評価とその理由

結果	役立っている	まあ役立っている	どちらともいえない	あまり役立っていない	まったく役立っていない
	32名	52名	25名	6名	0名
	28%	45%	22%	5%	0%
主な理由	授業改善のきっかけとなる 学生の意見が分かる 学生の受講態度が分かる		回答数が十分でない 結果の信用性に疑問がある 改善方法まで分からない 学生へのフィードバックが十分でない		

##### (2) アンケートへの意見

実施方法について	学生にまじめに回答させる方法を検討すべき 回答結果の匿名性をより高めるべき 全ての学生に回答させるようにするべき
実施時期について	学期の途中で実施すべき 学期末に行うのであれば講義科目などに限定すべき
アンケート項目について	項目を増やし多様な観点からデータを分析すべき 項目を減らし結果の正確性を高めるべき シラバスを見たか否かを確認すべき 3・4年生に対しては特別の質問項目を設けるべき
自由記述欄について	自由記述欄をより活用すべき 自由記述欄はあまり意義がないのでない方が良い
結果の分析について	結果の経年変化が分かるようにすべき 授業規模に応じた分析を行うべき 学生の出席率に応じた分析を行うべき
結果の活用について	アンケート結果に基づいて教員表彰制度を設けるべき 教員アンケートについてフィードバックを行うべき

#### 5、大学に対する要望

- ・出席調査システムを改善してほしい（欠席している学生が出席登録をしている）
- ・シラバスを読んで授業に出席するよう指導を徹底してほしい
- ・授業中のスマホ利用禁止を徹底してほしい
- ・教員アンケートの担当講義数に0の選択肢を設けてほしい

## 6、まとめ

教員アンケートの回収率は、同年度の春学期から大きく下落することはなかった。manabaを利用してアンケートを実施するようになったことの効果が持続しており、教員アンケートに関しては manaba を利用することへの抵抗は少ないようである。

結果の集計に関して、今回は、各授業における取組みとその成果を概略的にまとめているが、個別の授業の中での特徴的な取組みについては十分に救い出すことができていない。この点については次回以降の課題とし、将来的には、有効な取組みについて教員間で意見交換できるようにして行ければよいと考えている。